



Takao Tsuji

Touch World Cup 2011 スコットランド大会

日本代表

辻 孝夫

(38歳・新保町)

勝利につながるプレーでメダルを!

6月22日からヨーロッパのスコットランドで開催されるタッチワールドカップに、日本代表選手として出場する辻孝夫さん。大会名を聞いて「どんな大会?」と思う人は多いはず。この大会の競技名は『タッチラグビー』(※欄外説明参照)。

「小さい頃から野球やサッカーをやってきたが、長続きせず。しかし、大学でラグビーを始め、帰郷後タッチラグビーと出会った。タックルがなく、『走

る、かわす』といったプレーが中心であるこの競技に、身長162センチの体でも通用することがわかり、常に高い目標を持って努力してきた」と熱く語る辻さん。03年に開催されたワールドカップ日本大会にも出場し、優秀選手にも選ばれるほどの実力者で、今回が2回目の出場。「応援してくれる人や被災地の人たちのために、勝利につながるプレーを心がけ、メダルを狙いたい。また、七尾市にタッチラグビーを普及して日本代表を育てたい」と意気込みを語る。

七尾市在住で日本代表という偉業を成し遂げた辻さんに、今後注目したい。



タッチラグビーって? ラグビー選手の練習から生まれたスポーツ。ラグビーと大きく異なるのはボールを争奪するためのタックル・スクラムなど、身体接触がないパスゲームであること。ボールの争奪がない代わりに攻撃回数の制限(6回のタッチで攻守交代)を設けてあります。ハードな身体接触がないことから幅広い年齢層で楽しむことができます。

はしや よしみ
橋屋 好美さん
(26歳・能登島長崎町)



このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介し
ます。橋屋さんは前回の横川さんの紹介です。

リレーで紹介

フレッシュさん



高校卒業後、『リアルヘアカッティング ユウ』（生駒町）で働きはじめて8年目。「最初は頭の中が???ばかり。何度もやめたいと思っただけど、スタッフの人に恵まれて」と店内をグルリと見渡す。「幅広い年代の人と接することができるし、お客さんのイメージどおりにできて喜んでもらえるのが一番うれしい。一日一日を楽しく、無駄に過ごさず、『この人がいないと』という人になりたい。将来は七尾で自分の店を持ちたい」と夢をふくらませる。

そんな橋屋さんには意外な一面も。結婚後、能登島で暮らし、休みの日には田んぼに入って農作業もする。「今はトラクターの運転を勉強中で」と本格的だ。「美容師は）店内での仕事なので、田んぼに入ると気持ちいいし、元気がもらえる。全然嫌じゃないんですよ」と楽しげだ。若い女性に農業がブームと聞いたことはあったが、こんなところで出会えるとは。彼女の元気と笑顔の源はそんなところにあるのかもしれない。

かわしり
川尻 咲容さん
(32歳・能登島鵜目町)

出身地 鹿児島県屋久島町

(有)能登島ガラス工房で作家として活躍する川尻さん。取材で工房を訪れた際、入口で朝の清掃をしながら、爽やかなあいさつと笑顔で出迎えてくれたのが印象的だった。



思えば遠くへ
来たもんだ

どうしてガラス作家に?という質問に「中学生のとき、夫婦でガラス制作をしているテレビ番組を見て、ガラスに憧れ、いつかはガラス作家になりたいと能登島ガラス工房の門をたたいた」と話してくれた。

修行を終えた後、一度は長崎県の『雲仙ビードロ美術館 ガラス工房 Blowing』に就職したが、修行時代に出会っただんなさんとの縁で再び能登島に。「夢は、私が制作したランプなどの作品を飾れる新しい家を建てて、能登島を拠点に作家活動をしていきたい」と思いをはせる。まだ若く前途有望な川尻さん。夢実現と今後の活躍に乞うご期待!



このコーナーでは、県外から市内へ転入された人の声を紹介しします。